



# 世界の開発援助において 拡大する新興国の役割

---

西尾 昭彦

世界銀行グループ

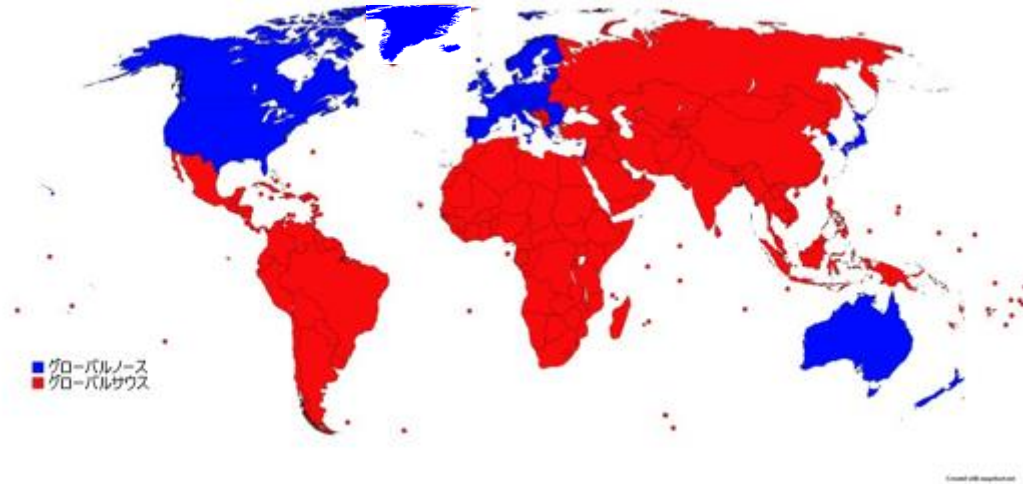
国際開発協会（IDA）

開発金融総局（DFI）担当副総裁

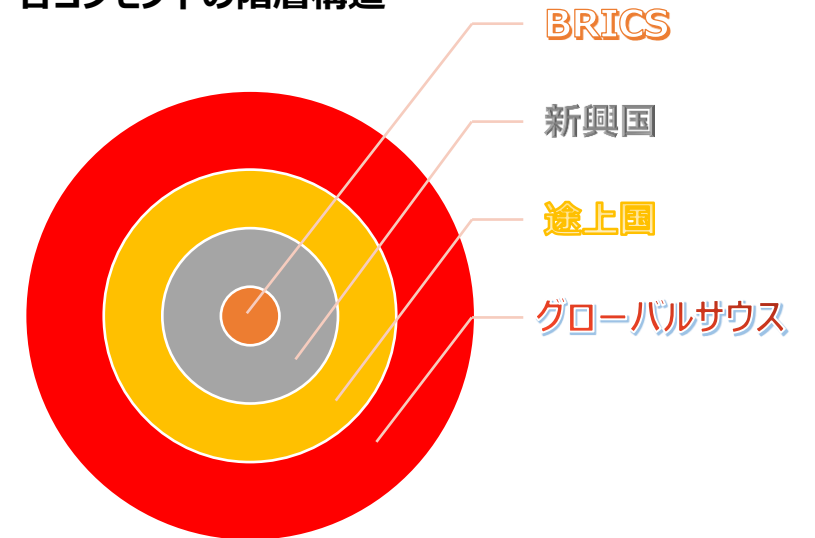
2024年3月6日

# グローバルサウス、途上国、新興国、BRICs、新興ドナー国の定義

グローバルサウスの地理的分布



各コンセプトの階層構造



広義



**グローバルサウス：**  
政治、地政学、経済  
面で途上国と共通の  
特徴がある様々な  
国々



**途上国：**  
OECD/DAC(開  
発援助委員会)が  
一人あたり国民総  
所得（GNI）で  
みて低・中所得国  
と定義するすべての  
国々



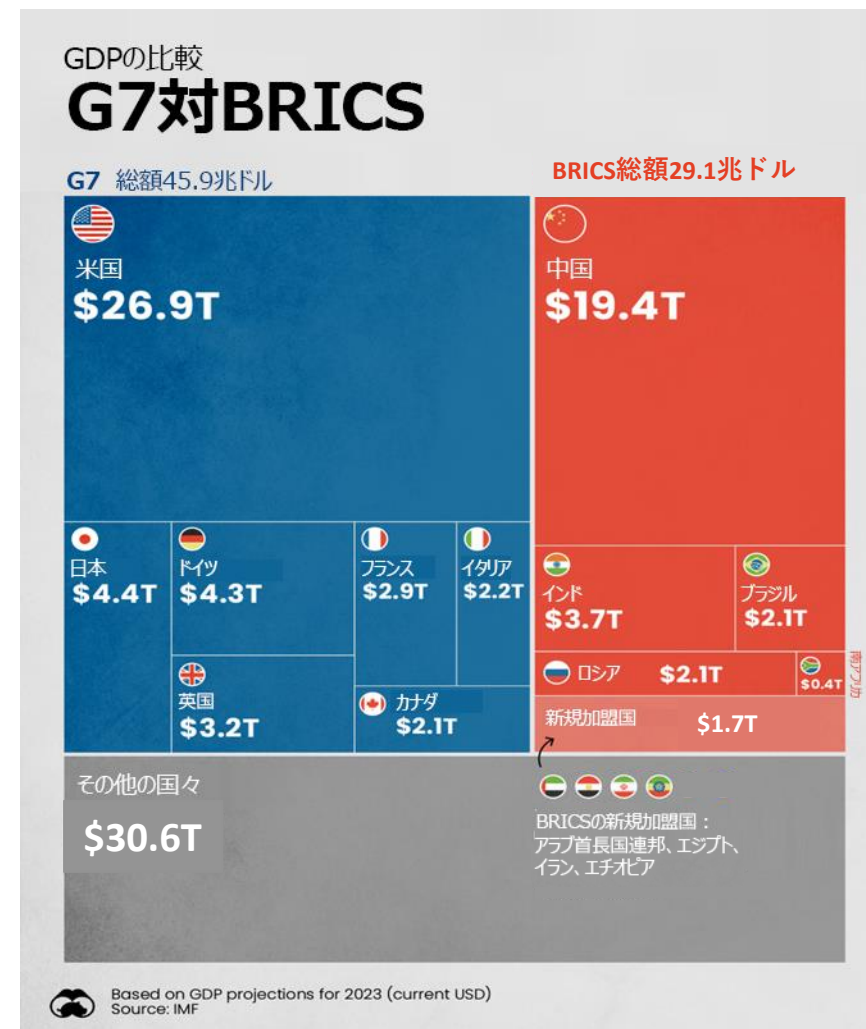
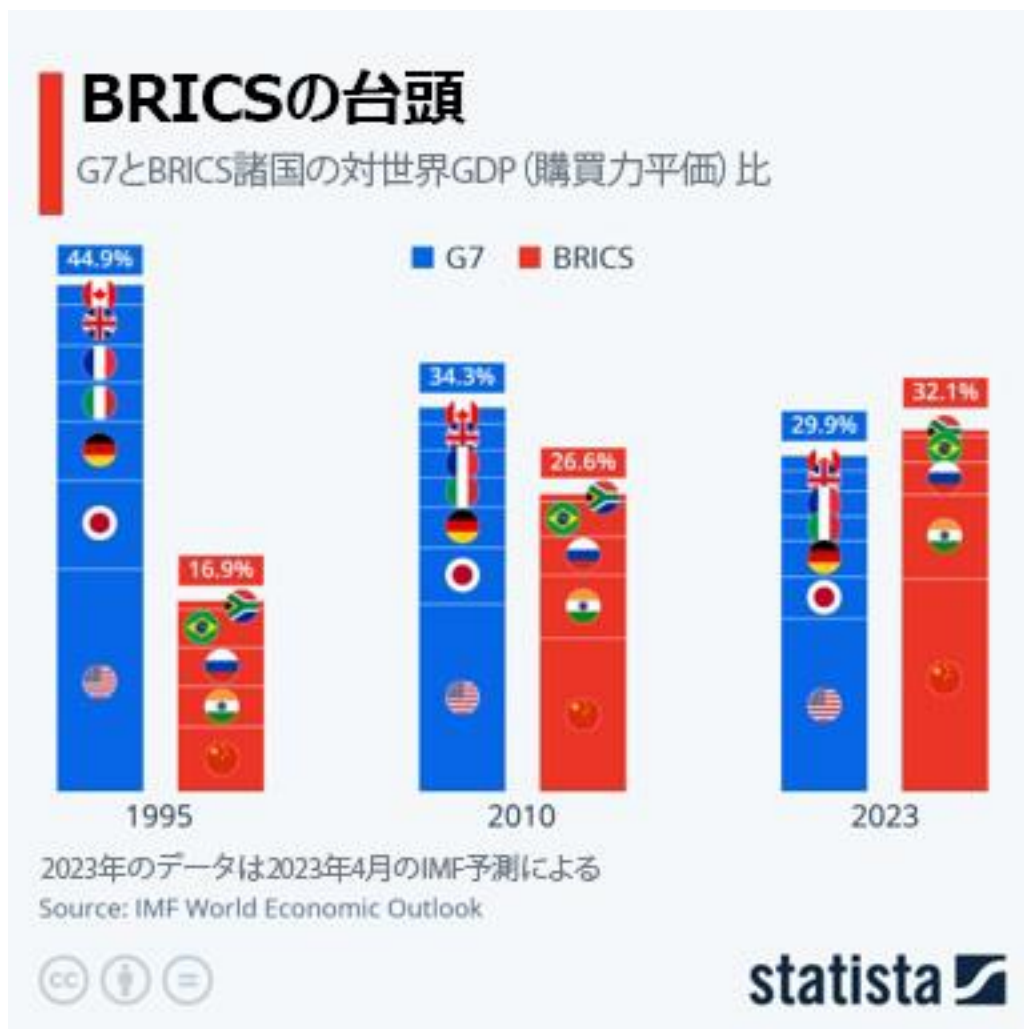
**新興国：**国際  
資本市場にアク  
セスのある中・高  
中所得国で多く  
は急成長中の  
国々



**BRICS：**特定の  
新興国による協力  
促進のための枠組  
みで、世界的影響  
力をもつG7に対抗  
する外交プラット  
フォームと受け取ら  
れることが多い

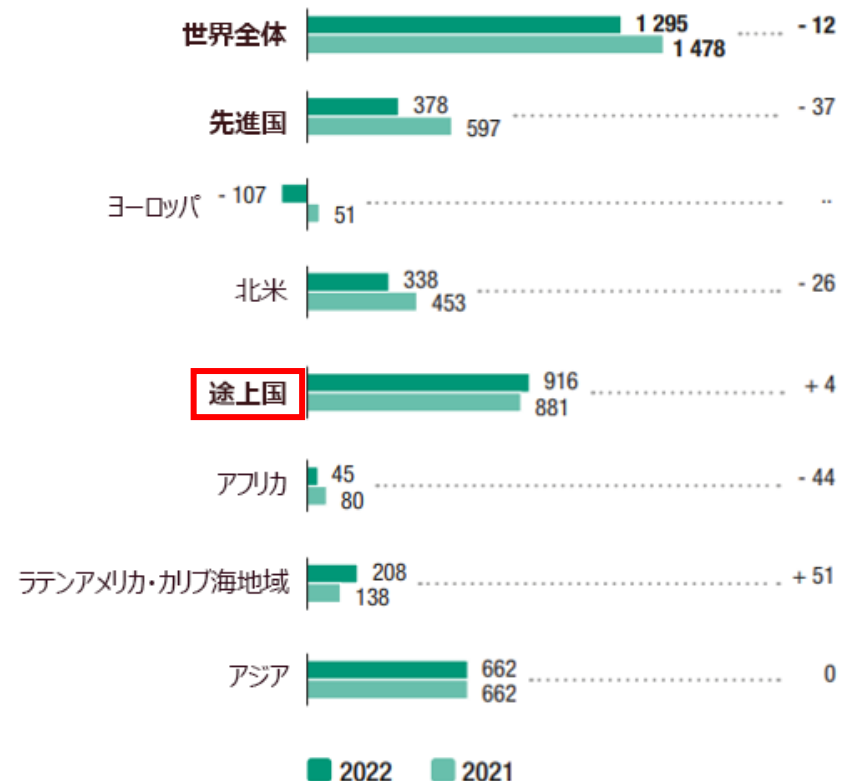
**新興ドナー国**とはDAC加盟国でないドナー国で、  
様々な南南協力国（例：BRICS、MINT（メキ  
シコ、インドネシア、ナイジェリア、トルコ）等）を含む

# グローバルGDP（購買力平価ベース）に占めるBRICS諸国の割合がG7を超過



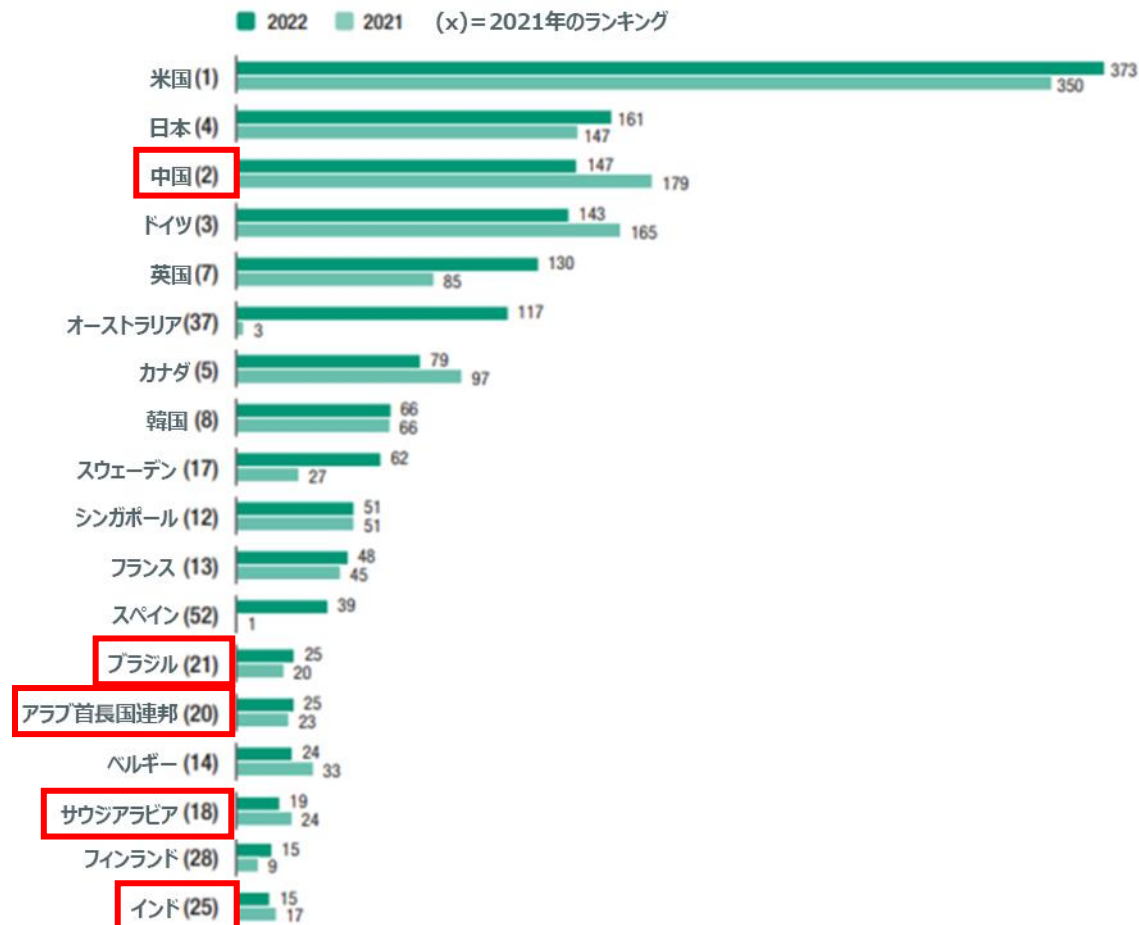
# 海外直接投資（FDI）：途上国は対内・対外直接投資の双方で主要な存在に

地域別にみた対内直接投資 2021-2022年  
(単位10億ドル、前年比%)



Source: UNCTAD, FDI/MNE database (<https://unctad.org/fdistatistics>).

対外直接投資の上位国 2021-2022年 (単位10億ドル)



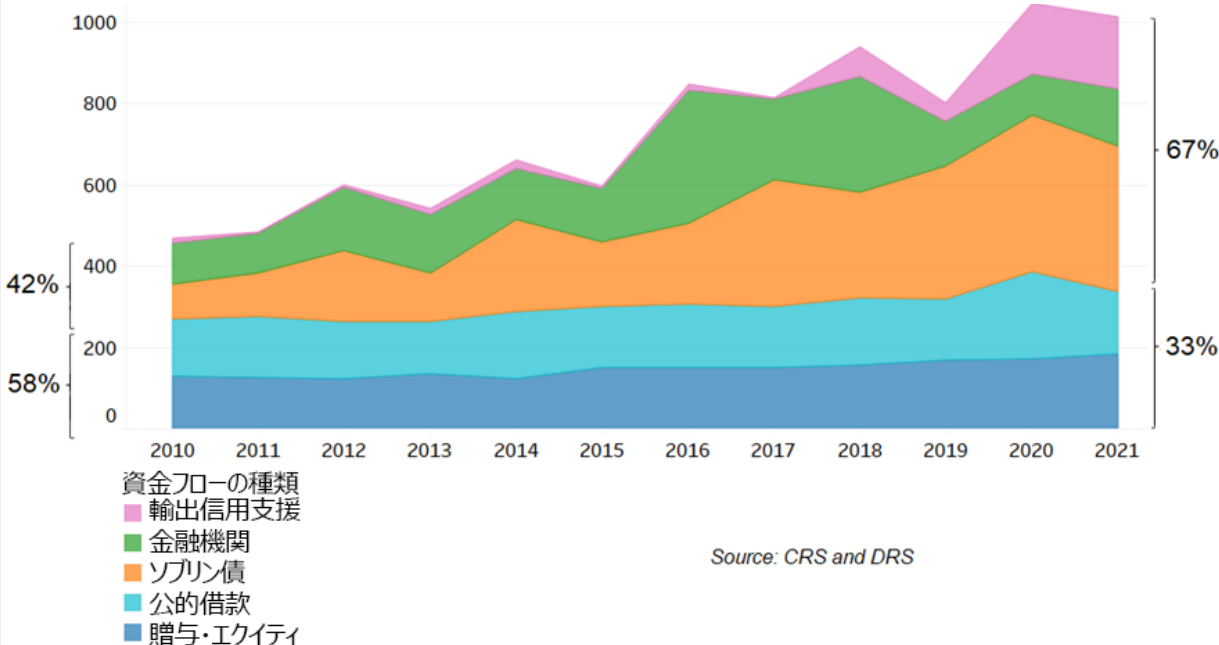
Source: UNCTAD, FDI/MNE database (<https://unctad.org/fdistatistics>).

# グローバルサウスのドナー国の貢献もあり、開発金融はこの20年間で着実に増加

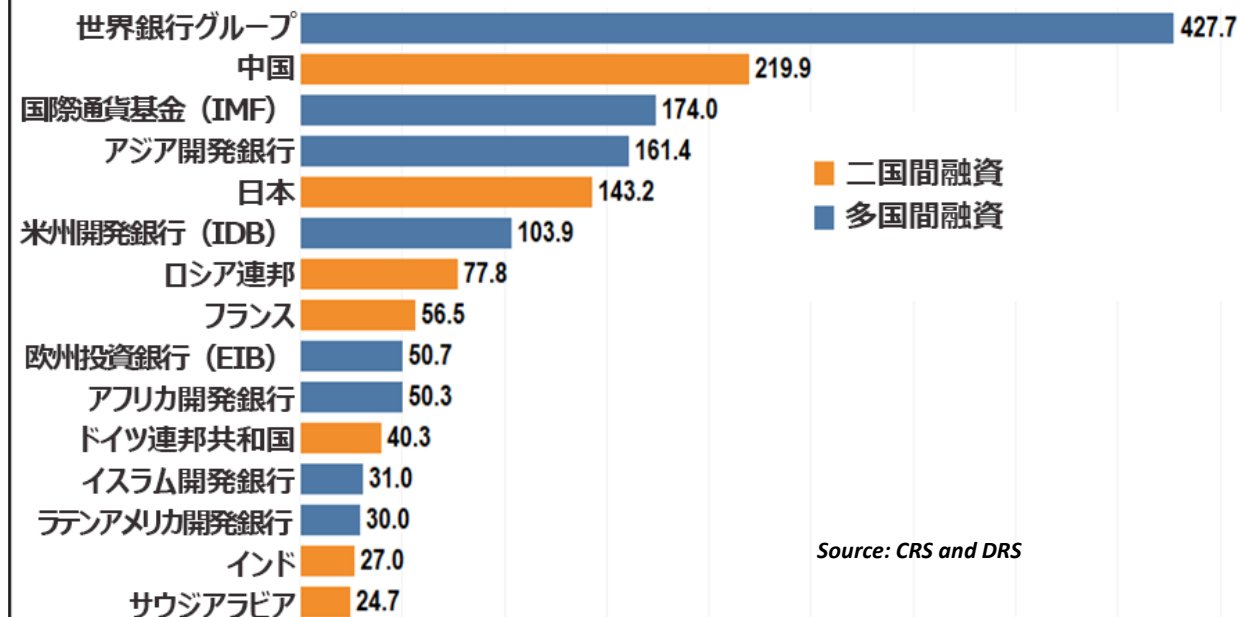
途上国への資金フローは民間資金の増加により着実に拡大

複数の新興国が過去20年間で上位の援助融資国として浮上

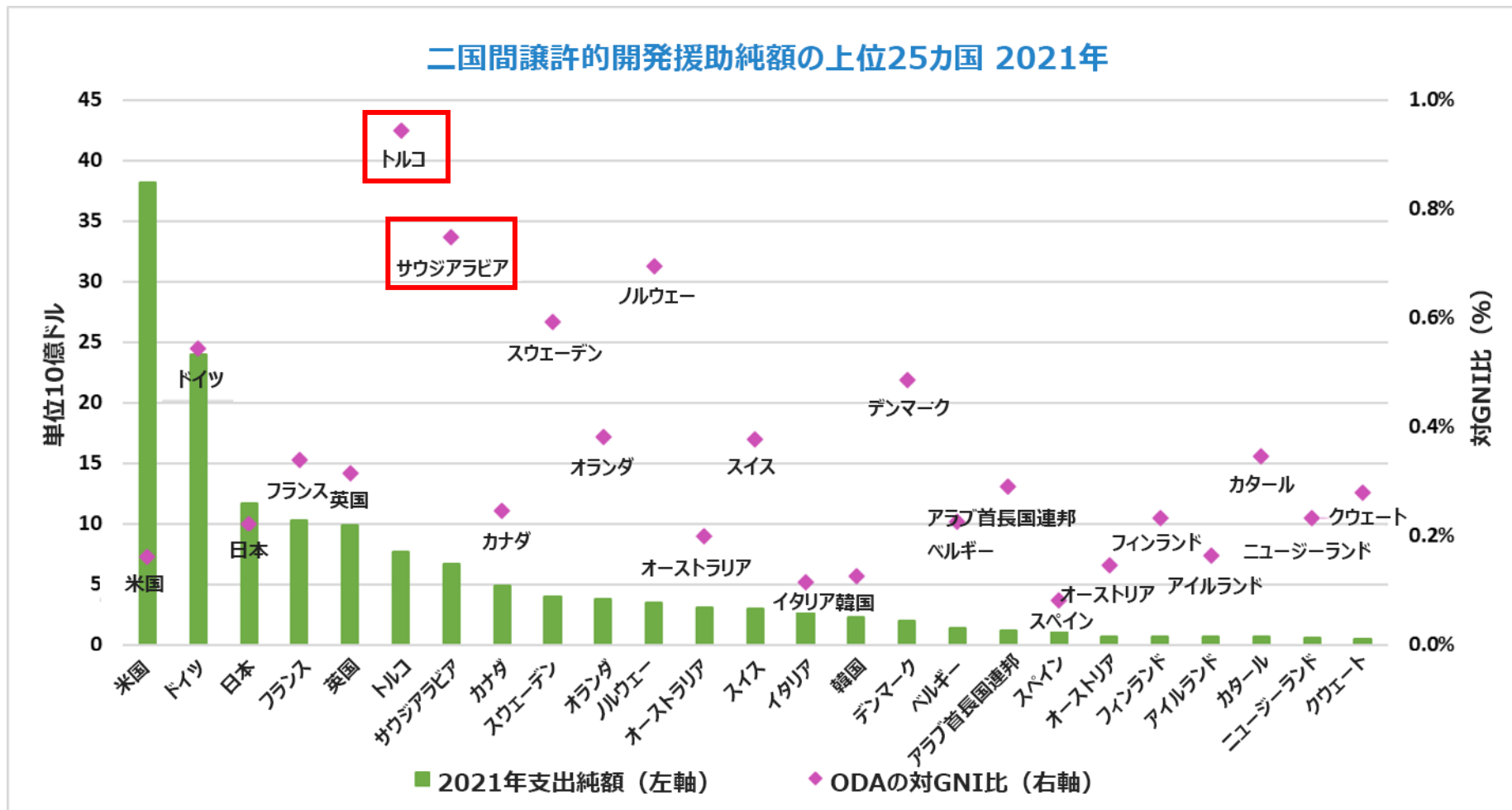
途上国の公共セクターへの外部資金の内訳  
(単位10億ドル、2021年価格、コミットメントベース)



上位15の国・機関による途上国への公的融資額  
(2010-2021年の累積額、単位10億ドル、2021年価格、コミットメントベース)



# 二大新興国であるトルコとサウジアラビアはGNI（国民総所得）に占めるODAの割合が世界トップ3のレベルに

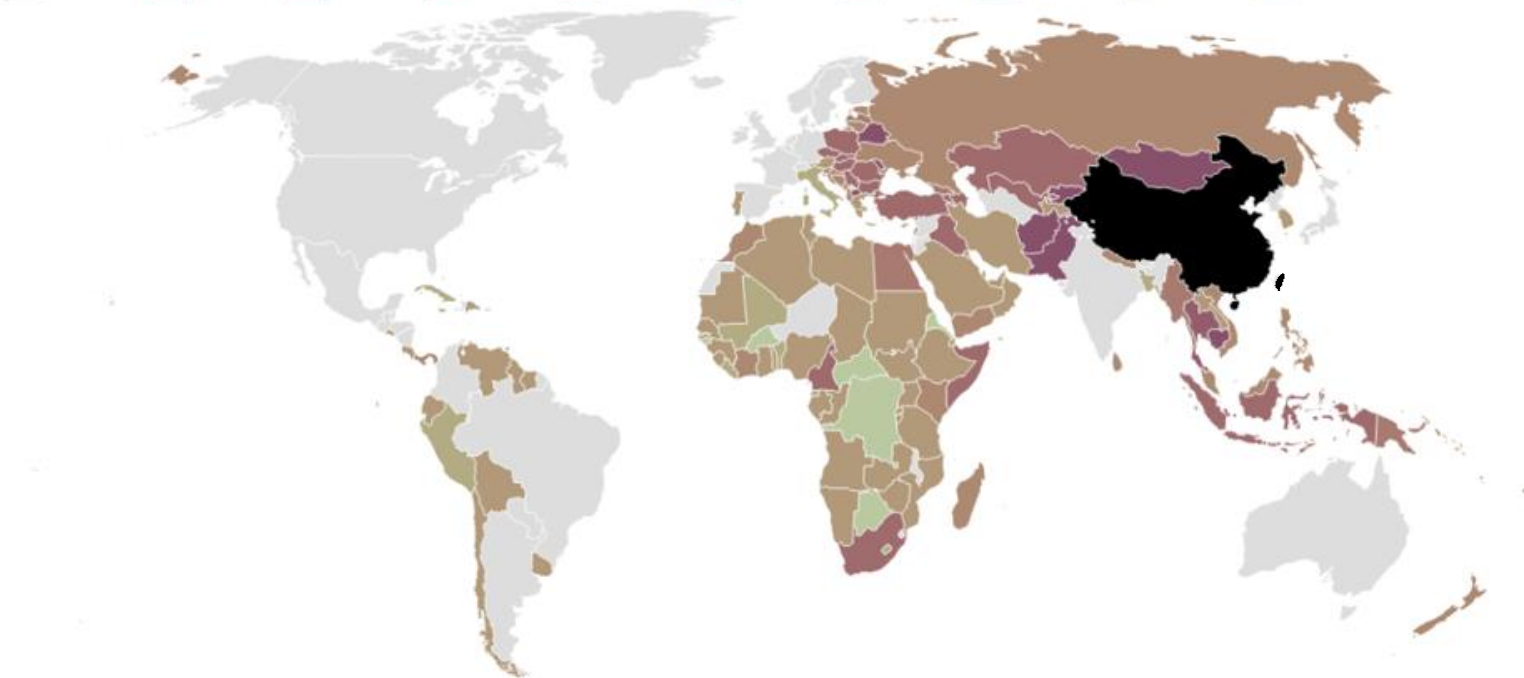


# 中国は一帯一路構想の下、なおもでは二国間援助として世界最大の公的資金フロー額（OFF）の提供国（OFF = ODA+その他政府資金OOF）

## 一帯一路構想参加国

一帯一路構想に参加した年

■ 中国 ■ 2013 ■ 2014 ■ 2015 ■ 2016 ■ 2017 ■ 2018 ■ 2019 ■ 2020 ■ 2021



出典: AidData.

注：公的資金フロー（OFF）：政府開発援助（ODA）とその他政府資金（OOF）で構成される。

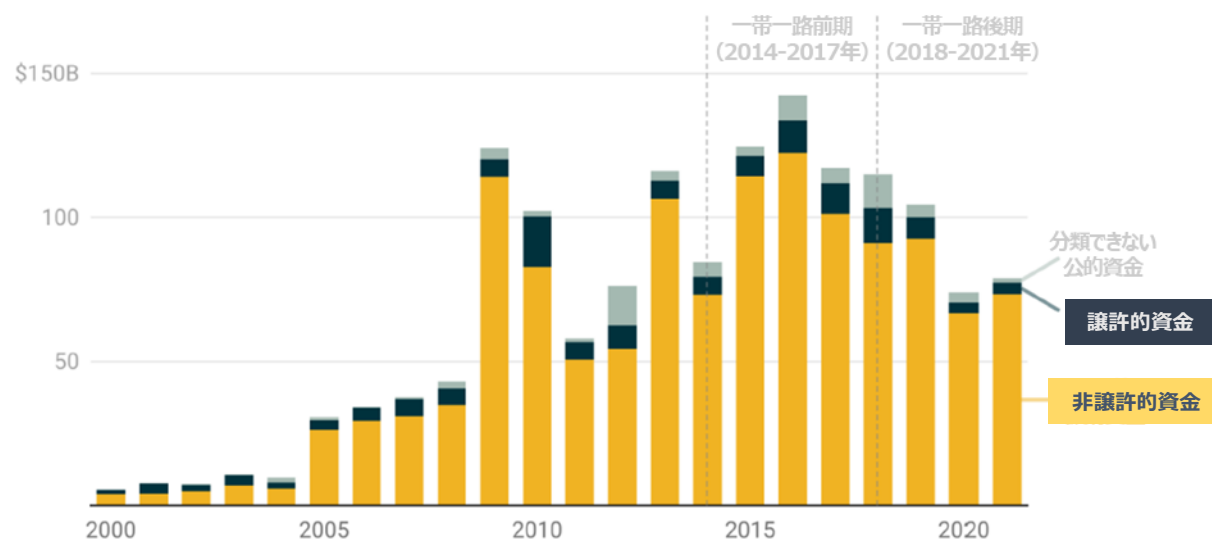
政府開発援助（ODA）：途上国の経済発展と福祉向上を具体的目標として政府が提供する援助。

その他政府資金（OOF）：開発を第一義的な目的としない、またはグラント・エレメントが基準以下である、のいずれかの理由でODAとして適格ではない公的資金の流れ。

# 中国の非譲許的融資は近年、減少傾向にあるものの、他のチャネル経由の公的資金は拡大の様相

## 中国から途上国への公的資金フロー 2000-2021年

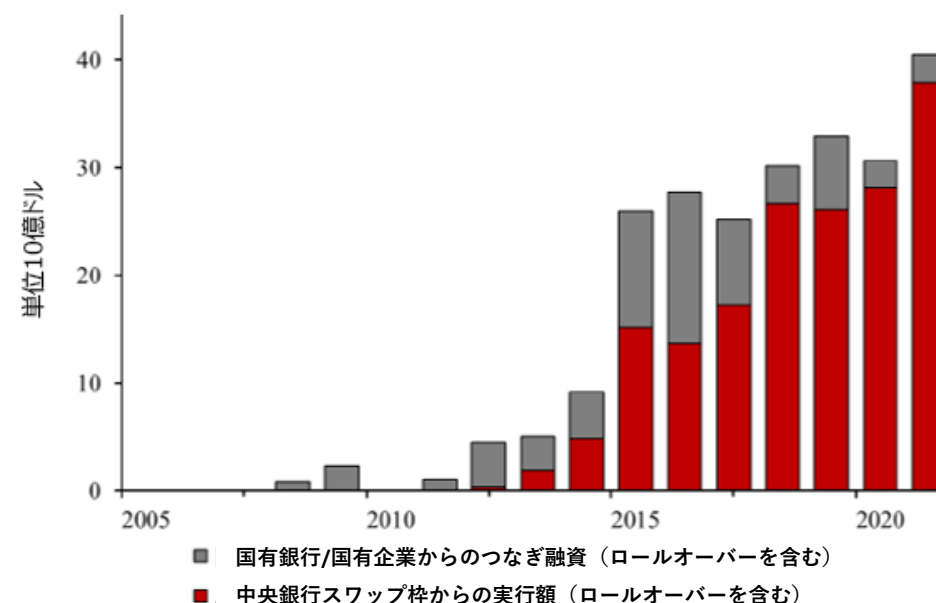
2021年実質価格、単位10億ドル



出典: Parks, B. C., et al. 2023. *Belt and Road Reboot: Beijing's Bid to De-Risk Its Global Infrastructure Initiative*. Williamsburg, VA: AidData at William & Mary

注: AidDataは、OECD-DACの基準を用いて、中国のOFFを譲許的資金（ODA）と非譲許的資金（OOF）に分類。分類できない公的資金とは、中国からの公的資金コミットメントのうち、詳細情報が不十分なためにODAやOOFに確実に分類できないもの

## 増加する中国の救済支援



出典: Horn, S. et al. (2023), *China as an International Lender of Last Resort*. Working Paper N. 124, AidData at William & Mary.

注: この表は、新たに延長された中国からの救済支援の暦年別総額。赤色部分は、国際収支管理のため中央銀行スワップ枠からの実行総額（ロールオーバーを含む）

## グローバル・エイド・アーキテクチャーで影響力を増すBRICS諸国とグローバルサウスの新興ドナー国



**ブラジル**：2024年にG20サミット、2025年に第30回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP30）を開催予定。また、ポルトガル語を公用語とするアフリカ諸国を中心に、途上国に多額の支援を提供。



**インド**：2023年にG20サミットと「グローバルサウスの声サミット」を開催。2021-22年の対外援助予算は9.1億ドル。



**ロシア**：2023年7月に49のアフリカ諸国が参加したロシア・アフリカサミットを開催し、アフリカ諸国の230億ドルの債務を帳消しにし、債務救済に向け追加で9,000万ドルの供与を発表。



**サウジアラビア**：2023年11月に、50カ国以上が参加した初のサウジ・アフリカサミットを開催し、2030年までにアフリカに約250億ドルを投資すると表明。



**アラブ首長国連邦**：2023年開催のCOP28にて、主にグローバルサウスのインフラ資金として、世界のクリーンエネルギー・気候変動対策プロジェクトのために300億ドル規模のファンドを立上げ。

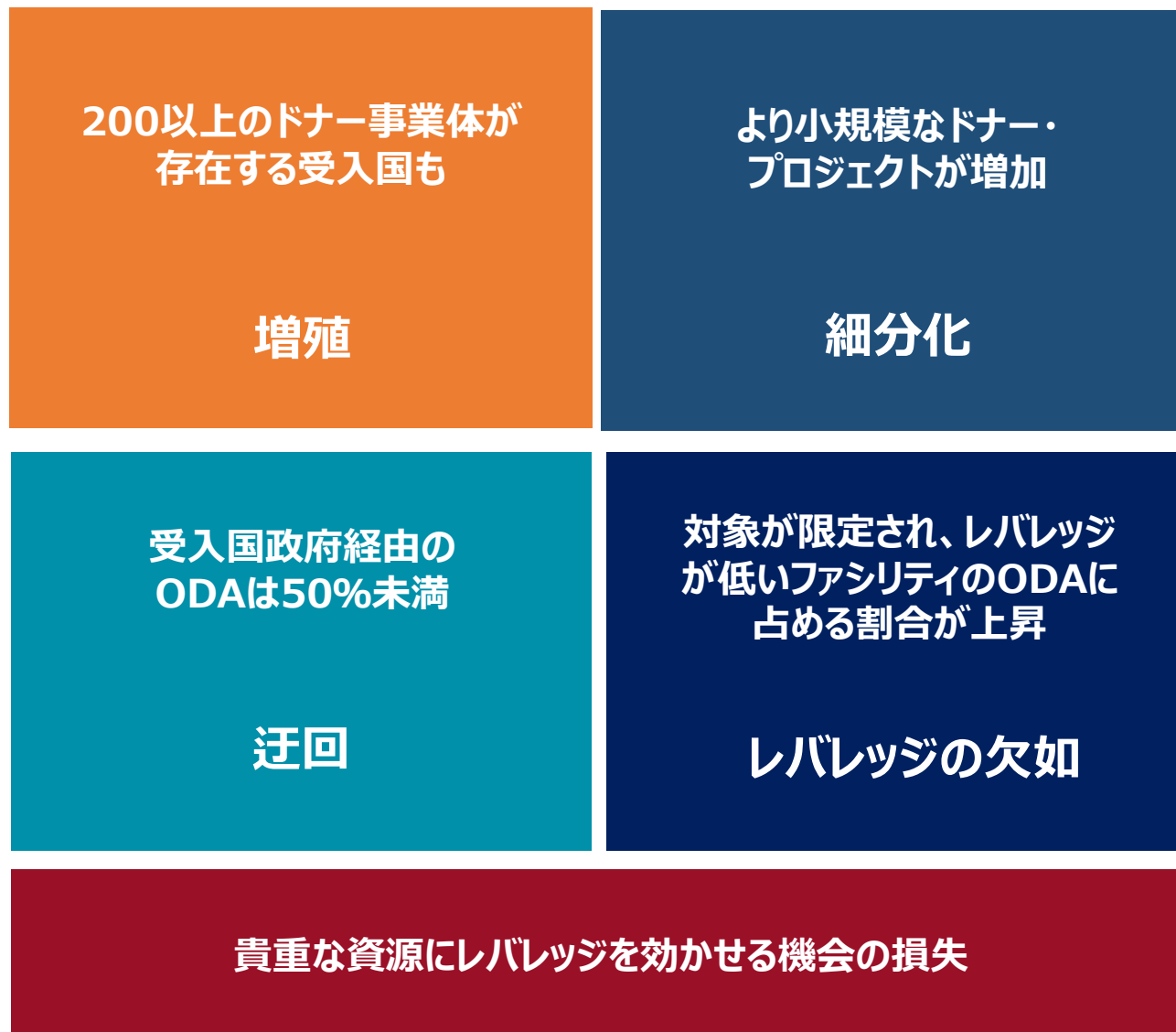


**カタール**：2024年3月にグローバル教育国際会議を開催予定。



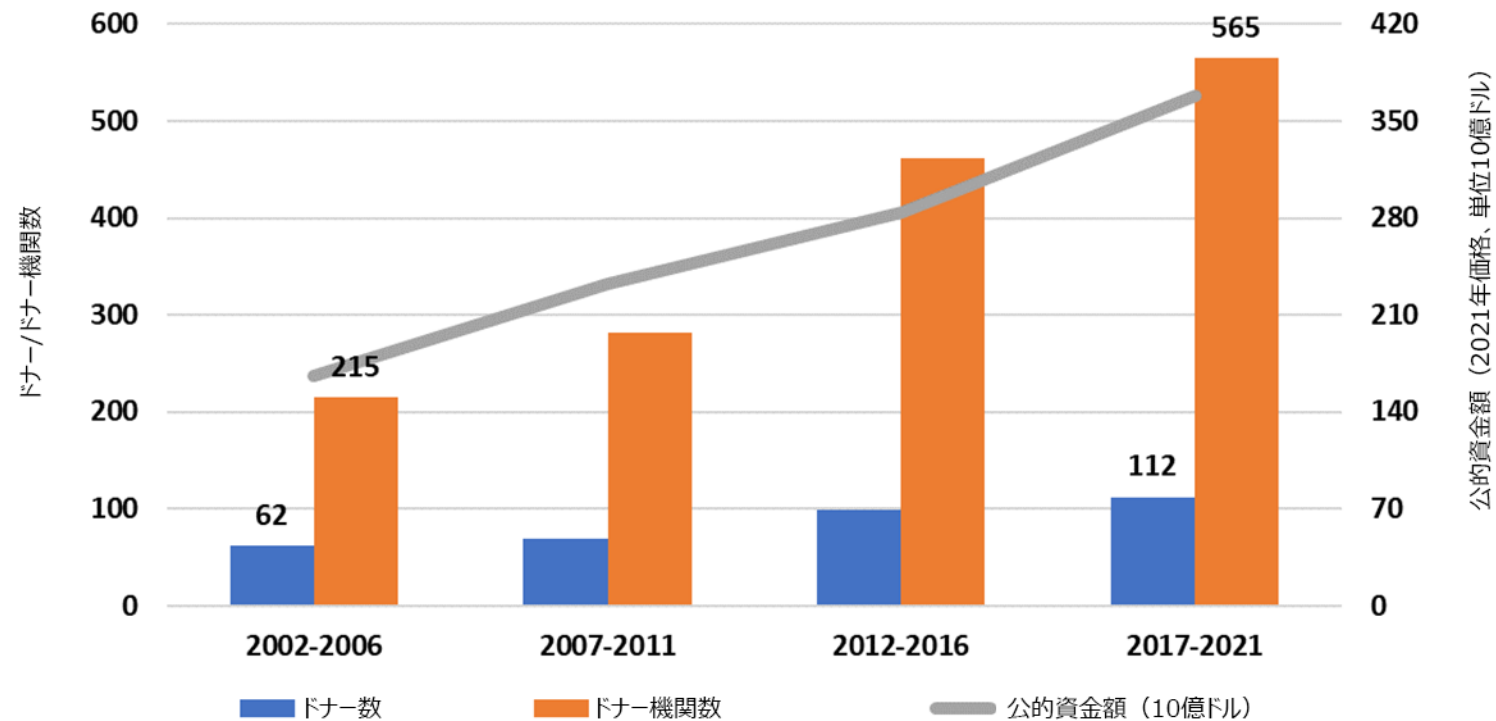
**トルコ**：2023年にテュルク諸国機構（OTS）の下で、加盟国間の経済統合を促進するために当初資金5億ドルでテュルク投資基金を創設。

# グローバルサウスにおける新興ドナーの登場で貧困国向け資金が増えること自体は望ましいものの、ドナーの増加はグローバル・エイド・アーキテクチャーにおける懸念点を増長させる面も



## メгатrend#1: 増殖 – ドナー国およびドナー事業体の数が増加

**増殖** – 公的資金額が過去10年で50%増加したのに対し、ドナー国の数は2倍、ドナー事業体の数は3倍近くに急増

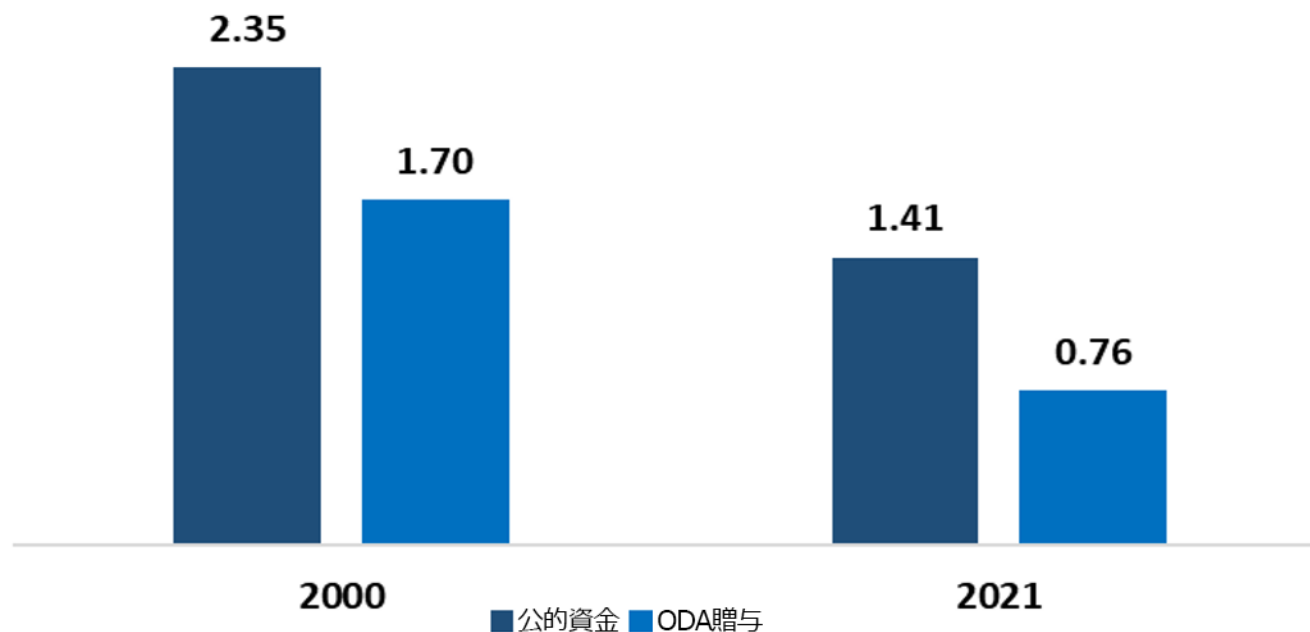


出典: Creditor Reporting System (CRS)

## || メガトレンド#2: 細分化 – より少額なドナー資金によるプロジェクト件数が増加

**細分化** – プロジェクトあたりの平均贈与額は半減し、公的資金フロー額は1/3近く縮小

公的資金額の平均規模（2021年価格、単位100万ドル）

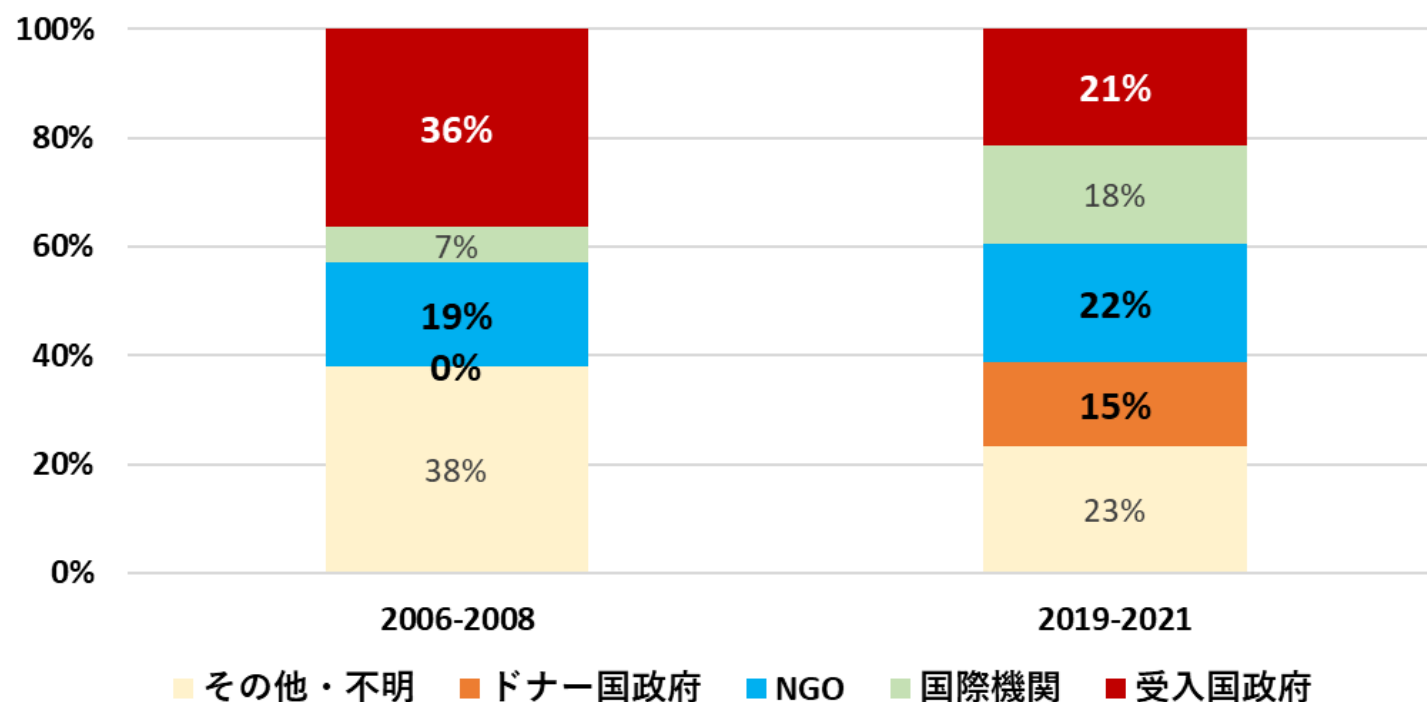


出典: Creditor Reporting System (CRS)

## メガトレンド# 3: 迂回 – 公的資金フローは受入国政府を迂回し、ドナー国政府（主に国内の難民・避難民へのコスト充当）とNGO経由が増加

### 迂回 – 受入国政府を迂回する公的資金フロー件数が増加

公的援助の流入チャネル別割合（件数ベース）



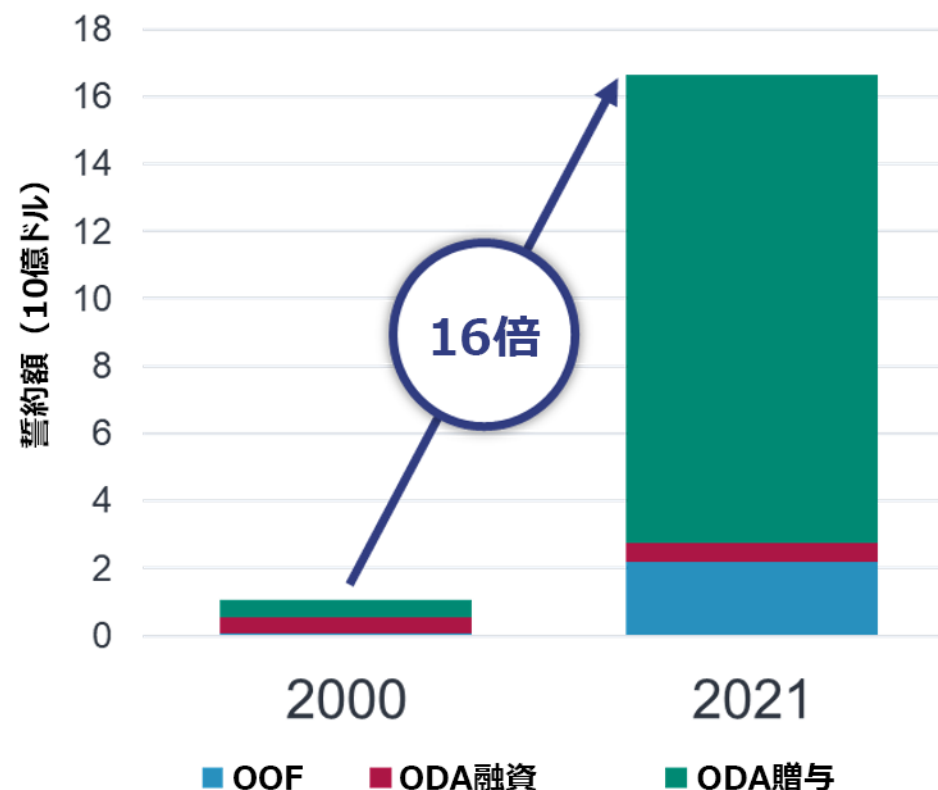
出典: Creditor Reporting System (CRS)

オランダの2024年政府予算には、受入難民・避難民に対する支援として多額のODAを計上予定のため  
自国が同国開発援助の最大の受入国となる見通し

出典: *The Scanning Has Begun, Vice Versa Online, February 2, 2024* - <https://viceversaonline.nl/2024/02/02/het-aftasten-is-begonnen/>

## メгатrend# 4: レバレッジの欠如 – テーマが狭く、多くは使途も限定され、レバレッジが効かないプラットフォーム向け資金の割合が急増

**レバレッジの欠如** – 垂直的プラットフォームからの公的資金フロー  
(コミットメントベース、単位10億ドル、2021年価格)



出典: Creditor Reporting System (CRS)

レバレッジが効かない資金枠ではドナーからの1ドルがそのまま1ドルとして受入国に提供されるが  
IDAのレバレッジ比率は1 : 4

# グローバル・エイド・アーキテクチャーにおける懸念すべき傾向に対処し、貧困国がIDAを含め伝統/新興ドナーからの増加する公的資金の恩恵を享受できるよう、具体的な対策が必要

## 考える対策



国際的な議論の場の設置：伝統ドナーと新興ドナーが一堂に会し、エイド・アーキテクチャーの問題や貧困国の負担軽減について議論。また、情報共有と透明性の向上を図り、伝統ドナーと新興ドナーが共通の目標に向けて協力



受入国政府経由の援助を増大：受入国が用途を含めた主導権を確保（2005年パリ宣言）



援助チャネルの統合：援助案件の細分化とドナー事業体の急増の問題に対応



ドナー資金にレバレッジを効かせることができる組織経由のODAを増やし、途上国に提供される資金を倍増－IDAの場合、レバレッジ比率はほぼ1：4

## IDA21

- IDAは59のドナー（伝統ドナーと、BRICS全加盟国を含む新興ドナー）によるグローバル・コミュニティで、貧困国向けの世界最大の基金
- 2021年の前回の増資では、3年間で過去最大の930億ドルを確保。始まったばかりの第21次増資交渉は2024年12月に合意予定
- 中国、韓国、インドといった国々はIDAを卒業して現在は主要ドナーに。ボスニア・ヘルツェゴビナなど最近の卒業国もドナーとして貢献
- IDA資金の90%以上は受入国政府経由で提供
- 世界各地での実績と招集力を誇るIDAは、水平的・垂直的開発アプローチの統合とリバランスを主導するだけでなく、伝統ドナーと新興ドナーの協力を促進し、援助のインパクトを最大化させることが可能。
- IDA独自のハイブリッド型資金調達モデルにより、ドナー国からの拠出に、トリプルAの格付けを生かした資本市場からの低金利での借入を組み合わせることで、最貧国のためのさらなるリソースを確保することが可能

注：国際開発協会（IDA）は、世界銀行の機関であり、世界で最も貧しい国々を支援。1960年に設立されたIDAは、貧困削減に向け、経済成長の促進や格差是正、人々の生活水準向上のためのプログラムに無利子またはごく低金利の融資（クレジット）と贈与（グラント）を供与。



ご清聴  
ありがとうございました



[HTTP://WWW.WORLDBANK.ORG/](http://www.worldbank.org/)